

創立 90 年 広島国際学院 報

建学の精神
教育は愛なり

第 104 号

平成 29 年 9 月 1 日発行



特集 最近の教育・研究から

授業で学んだ知識を生かし、学生自ら制作した大学 CM の一場面

目次

特集 最近の教育・研究から	1・2
実践・経験を重ね高める知見 工学部	3
キャンパス外との交流も積極的に 情報文化学部	4
フレッシュな思考が未来を拓く 総合教育センター	5
本短大の教育に海外からも関心 短期大学部	6
高校から発信	7・8
大学院生の研究成果	9・10
留学生交流会	10
高校新体育館の緞帳を出身学生がデザイン・プレゼンテーション	11
今後の行事予定	11

高校から発信

本短大の教育に海外からも関心

短期大学部

フレッシュな思考が未来を拓く

総合教育センター

キャンパス外との交流も積極的に

情報文化学部

実践・経験を重ね高める知見

工学部

特集 最近の教育・研究から

<http://www.hkg.ac.jp>

大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

教育シンポジウム

本大学では教育シンポジウムを毎年開催しています。各教員が考案した教育プロジェクトを申請し、出席した教職員との間で活発な議論を展開することで教育の充実を促進しています。平成 29 年度教育シンポジウムで発表された 20 件の中から、工学部、情報文化学部、総合教育センターそれぞれの特色を備えた 3 件のプロジェクトを紹介します。

パーソナルモビリティ設計・製作プロジェクト

工学部 生産工学科 准教授 中村 格芳



パーソナルモビリティの試作機

今年度、食農バイオ・リサイクル学科の渡邊研究室と生産工学科の池坊研究室、中村(格芳)研究室の 3 研究室共同のテーマとして「パーソナルモビリティの設計・製作」を行います。パーソナルモビリティ (PM) とは人を運搬できる小型移動体の総称で、東京オリンピックを控えた新たな移動手段として注目されています。PM の製作には、機械工学・電子工学・情報工学といった複数のジャ

ナルの知識が必要で、多様化するものづくりの現場に対応できる技術者の育成にマッチします。

プロジェクトを立ち上げるにあたり、昨年度に試作機の製作を行いました。本体の設計や解析には 3D-CAD、製作には各種加工法の知識が必要となり、出来上がった本体を動かすためにはセンサーやモーター類とそれを制御するマイコンを扱う知識が必要で、製作に当たった学生は、作業が進む毎に発生する複数の課題を解決しながら完成にこぎつけました。今年度は、昨年度行えなかったソフトウェア開発も視野に入れ、さらに高い完成度を目指します。

VR プロジェクト

情報文化学部 情報デザイン学科 准教授 趙 領逸

情報デザイン学科の趙研究室では VR (バーチャルリアリティ) を用いた研究とゼミナール活動を行っています。研究では、仮想空間における心理状態の変化を POMS (Profile of Mood States) と TDMS (Two-Dimensional Mood Scale) を用いて男女の空間認知能力の特徴とストレス要因との相関関係を探ることを行っています。ゼミナール活動としては研究内容をベースにし、興味を持ってもらえるオリジナル・コンテンツを制作することでオープンキャンパスや学外活動で披露しています。

この活動で、次世代の情報伝達媒体に興味を持つ体験者に、近未来の情報伝達手段としての VR 媒体への理解を高めることを目指します。特に去年から地域活性化プロジェ

クトとして制作した「西国ガイドの広報映像」に続き、VR コンテンツの制作を企画中です。ネットを通して体験し、実際に現場まで来てもらえるきっかけになることを目的としています。

学内も同じ活動を行っており、VR 体験ができるよう工学部、情報文化学部の代表的な施設を 360 度撮影した画像を本学の HP で公開しています。



オープンキャンパスで行った VR 体験

「日本語能力試験」受験支援をはじめとする外国人留学生の日本語能力向上支援、および大学生活円滑化のための多言語化

情報文化学部 情報デザイン学科 講師 川崎 千枝見



日本語能力試験の模擬試験を実施

本大学には、6 か国から来た 136 名の外国人留学生が在籍しており (5/1 現在)、彼らの多くが日本での就職・進学を希望しています。

そこで必要となるのが

日本語能力の証明 (試験) で、代表的なものに「日本語能力試験」(以下、JLPT) や「BJT ビジネス日本語能力試験」(以下、BJT) があります。

JLPT 受験支援として、平成 23 年度から学内特別教育費による支援 (模擬試験の定期的な実施、合格者等への受験料補助) を行っており、平成 28 年度の JLPT 受験者は 71 名、受験料補助対象者は 17 名でした。上位レベルの N1 や N2 は難関で、数年越しでの合格も珍しくありません。そのため、これらのレベルでは不合格の場合でも前回受験時比で点が伸びた学生には一部補助を行い、継続的な学習を推奨し支援しています。また、就職に向け「ビジネス日本語」を学ぶ学生が BJT を受験する際にも受験準備のサポートを行っています。

競争的資金による研究

有効な高等教育を維持していくには教員の研究活動は不可欠なものです。従来、主に学内特別研究費に依存していましたが、最近は科学研究費等外部資金の獲得を推奨しています。本年度は、科学研究費補助金6件に加えて、科学技術振興機構等から委託研究4件を受け入れており、この中から1件を紹介します。

材料破壊の予兆をとらえる数理モデルの構築 －戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) での研究開発に参加して

工学部 生産工学科 教授 高石 武史

最近、軽くて丈夫な炭素繊維強化プラスチック (CFRP) 製の機体を持つジェット機が空を飛び交うようになりました。そこで国産の技術がふんだんに使われていることがニュースになりましたが、この研究は、それらをさらに発展させる基盤技術となることを目指しています。

私が取り組んでいる研究は、やや大きいスケール (1 μm - 1 m) で材料を見た場合の亀裂の進み方を調べる数理モデル (方程式) を作ることで、プラスチック等の高分子材料が壊れる際のきざし (予兆) をとらえようとしています。これまでに、亀裂の有無を表すフェーズフィールドという変数を用いた数理モデルを、粘性を持った材料用に改良することで、粘弾性の強さと亀裂の進み方の関連が明らかにできることが分かりました。また、この手法では、材料のダメージを考慮しながら複雑な破壊の時間発展シミュレーションを行うことができ、劣化によって不均一性を生じた材料の破壊への応用が可能となっています。現在、このモデルを分子の幾何学構造等のミクロスケールの情報と連携させ、劣化や破壊の予兆をとらえる数理モデルを構築しようとしています。

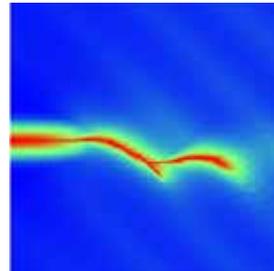


図1 材料の不均一性を反映した亀裂進展

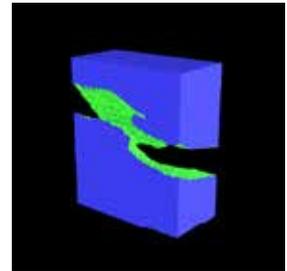


図2 3次元亀裂進展シミュレーションの結果

この研究は、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) が創設した、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「革新的構造材料」の支援により実施しています。SIPは、府省・分野をつないで、基礎研究から実用化・事業化までを見据えた研究開発を推進しているプログラムで、その一つである「革新的構造材料」は、強く、軽く、熱に耐える革新的材料を開発し、航空機を始めとする分野でエネルギーをより効率的に利用することを目標としています。

私は東北大学原子分子材料科学高等研究所 (AIMR) を中心としたチームのメンバーとして、マテリアルズインテグレーション (MI) 領域内の高分子 MI 研究開発に参加しています。このチームは、数学・物理学の理論・計測・数値シミュレーションの研究者で構成されており、高分子の劣化・破壊現象の新たな数理解析手法を開発しています。既に、高分子の劣化・破壊現象のナノスケールでの観測や、分子動力学シミュレーションや実験観測のデータから粒子の空間配置の幾何学情報を抽出して特徴を見出すなどの成果を上げています。

本課題は前期3年が終了し、今年度より後期2年がスタートしました。プロジェクトの目標達成に向けて邁進するとともに、異種分野融合で構成された高分子 MI グループで議論を進めていくことで得られた知見を今後の研究活動に生かしていきたいと考えています。

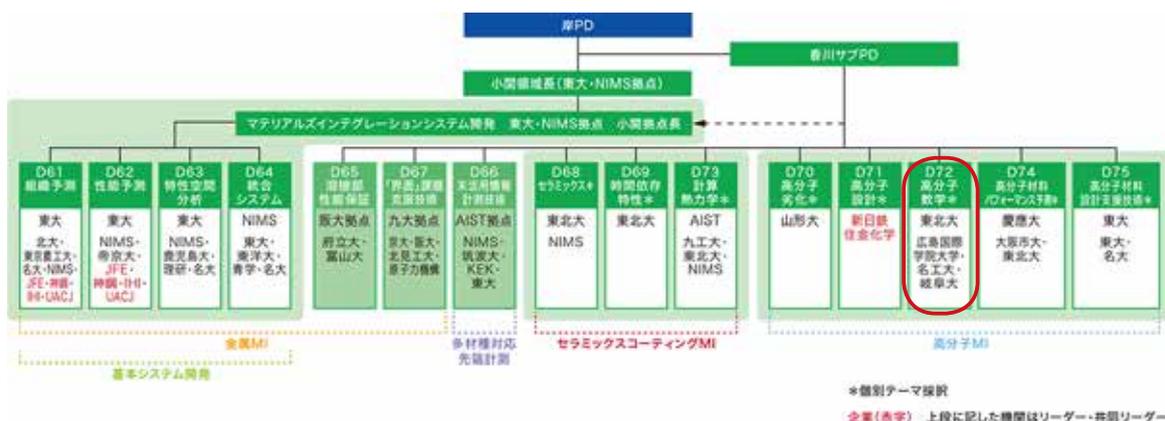


図3 マテリアルズインテグレーション (MI) 領域研究開発課題・ユニット (SIP 革新的構造材料 web サイトより)

生産工学科新入生歓迎オリエンテーション

生産工学科新入生歓迎オリエンテーションを4月15日に開催しました。

10時30分より学生談話室にてガイダンス後、6号館前でバーベキューによる食事会を行い、親睦を深めました。参加者は新入生59名、在学生13名、教員23名(合計95名)でした。当日は少し風が強かったものの、晴天に恵まれ、学生同士協力し合ってバーベキューの準備、後始末を行い、楽しい時間を過ごしました。

これから4年間、有意義な学生生活を送ることを期待しています。



皆で食べるバーベキューは格別

ロボット実習



ロボット制作に取り組む学生

2017年度新学期の授業が始まり、生産工学科の3年生ではロボット製作の実習が開始しました。自分で作ったロボットに、超音波センサーを組み合わせて障害物回避をプログラムしたり、タッチセンサーを組み合わせて、ぶつくと方向転換するロボットを製作したりしました。また光センサーを組み合わせたロボットは、地面にひいた線をたどるライントレースや、光に反応して向かって行くことなどをプログラムすることができます。初めてのロボット製作やプログラム入力は難しそうでしたが、すぐに慣れて一通り製作することができました。

PICK UP!

食農体験塾でそうめん流しを行いました

さまざまな学科の学生が、目的達成のため共同作業を行う食農体験塾は、本学の教育理念である「信和・協同・実践」を具現化するイベントです。

さまざまな学科の学生が、目的達成のため共同作業を行う食農体験塾は、本学の教育理念である「信和・協同・実践」を具現化するイベントです。

一方キッチンでは、食農バイオと情報デザインの学生たちがトッピングや薬味を準備し、生産工学科の学生たちがそうめんをゆでました。高連携授業で来ていた高校生も参加して、そうめん流しが始まりました。食べる方は楽しく美味いのですが、そうめんを流す係はいつまでたっても食べられません。自動でそうめんを流す装置があればと思います。



そうめんの流し台を作る学生たち



夏の恒例行事となったそうめん流し

梅雨明け間近の7月中旬に、食農体験塾でそうめん流しを行いました。そうめん流しは、10年以上続いている食農バイオ・リサイクル学科の夏のイベントです。今回は、生産工学科と情報デザイン学科の学生も参加しました。

PICK UP!

2017年母の日・父の日ワインラベルに学生デザイン

2017年母の日ラベルのデザインには、情報デザイン学科4年生の小川知佳さん(広島国際学院高校出身)と重松亜侑美さん(松山南高校出身)、3年生の出口綾華さん(武田高校出身)と西岡舞さん(広島国際学院高校出身)のデザインがせらワイナリーショップで厳正に審査され、採択されました。小川さんと重松さんの作品は華やかさと繊細さが評価され、出口さんと西岡さんの作品は、お母さんに対する感謝と温かさが伝わる表現が評価されました。また、父の日ラベルには3年生の小田上真也さん(宮島工業高校出身)と木下雄大さん(広島県瀬戸内高校出身)の作品が選ばれ、楽しく涼しげな表現が評価されました。今年初めて企画されたハロウィンラベルデザインにも期待が高まります。



2017年母の日ラベルワイン

情報文化学部

ポップカルチャーをテーマに交流！「ひろしまポップカルチャー2017」に出展



情報デザイン学科の作品展示コーナー

「ひろしまポップカルチャー2017」が8月26～27日、旧日本銀行広島支店（中区）などを会場に開催され、情報デザイン学科の学生も作品展示で参加しました。行政やNPO、大学、短大や専門学校、企業、個人などが協力して実施されたこのイベントは、世代や国境を越えて広がるポップカルチャーがテーマ。有識者によるシンポジウム、人気アニメ声優の関智一さんや



ひろしまポップカルチャー2017 チラシ(表面)

アニメーション映画『この世界の片隅に』の片淵須直監督のトーク、さらに国内外のコスプレイヤーの交流会など盛りだくさんの内容。本学のHKGキャラクタープロジェクトの学生達もキャラクターパネルやグッズ類など日頃の活動の成果を発表しました。なお、今回のイベントチラシは好評となっていますが、こちらは大学院生の松本佳奈さん（広陵高校出身）が表面を、3年生の山本千晶さん（瀬戸内高校出身）・藤尾晴香さん（熊野高校出身）が裏面の制作を担当しました。

キャンパス外との交流も積極的に



大学CMの音声録音

学生による大学CM映像作成

2017年夏からテレビで放映されている大学CM(コマーシャルメッセージ)映像は、実際のデザイン業界で行う様々なデザイン思考、プロセスを経験しながら学生自ら仕上げた作品です。情報デザイン学科2・3年生の学生を対象に開設されている専門科目「映像メディア表現I,II」(担当:趙准教授、岡川講師)の授業で学んだ映像文法および、撮影と編集の知識を活かして実践的な応用を目指すことは勿論、本学の魅力発信における大学の強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)要因を探る「SWOT分析」を行い最適な提案をしました。何よりも参加した学生は、企画から撮影、編集、最後にプレゼンテーションまで大学で学んだ知識と思考の活性化をできた極めて良いアクティブ・ラーニングの経験になったと思います。今後、今回の経験を踏まえて実践的な教育の事例を増やしたいと考えています。

PICK UP!

認知症サポーター養成講座 1年生、認知症サポーターに

いてお話を伺いました。認知症の方への対応を実際に学んでもらうために、学生にロールプレイを体験してもらいました。コンビニでの対応や家で財布を無くした事例といった身近な場面で、接し方について学びました。平本敦士さん(広島国際学院高校出身)は、コンビニでの対応で一声かけて支払いを手伝うように接し、石井春奈さん(庄原格致高校出身)は、財布を無くしたということを受け止め、いっしょになって探すという対応をしました。学生ははじめはどのような点に注意して接したらよいのか手探り状態でしたが、認知症の方の言ったこと、行動を否定しないでまずは受け止めること、暖かな気持ちで接することの大切さを学びました。認知症は誰にでも起こる病気であり、認知症の方に偏見を持たないことを全員が学びました。受講生は認知症サポーターとして認められました。認知症に関する知識に基づいて、日常生活の様々な場面でお年寄りの力になってくれることを願っています。



身近な例から認知症の方への対応を学ぶ

6月28日に現代社会学科1年生の初年次セミナーにおいて、認知症サポーター養成講座を行いました。広島市瀬野川東地域包括支援センターのご協力のもと、グループホーム白光の家の新居佳子さんから、認知症の原因や症状、接し方につ

総合教育センター

初年次セミナー

科目「初年次セミナーⅠ・Ⅱ」（前・後期）は、全1年生を対象とした必修科目です。総合教育センター・各学科・事務部による全学的連携のもと、大学生活への円滑な移行を支援します。前期の第4週までは、おもに全学科合同セミナー形式で実施しました。



第4週「大学生と人権」講義



テキスト『大学生の学修と生活』表紙

第2・3週「大学生の学修と生活」では、総合教育センター作成のテキストなどを使用しながら、社会における大学の位置づけ、学修上の仕組みや用語、さらには本学院の建学の精神や本大学の教育理念などを学びました。

第4週「大学生と人権」では、広島人権擁護委員協議会から講師を迎え、「共生社会をめざして」をテーマに、大学生として必要な人権に関する知識・認識を身につけました。

第5週からは学科別セミナー形式で実施され、所属学科で学ぶうえで必要な知識・技術・認識を身につけるための授業を行っています。また後期には、地域学修・キャリアデザイン・異文化体験といった幅広いテーマでの合同セミナーの実施も予定しています。

女子学生交流会



プライダルイベントに向け、積極的に提案する女子学生

今年度、初めて「女子学生交流会」を開催しました。本学では、毎年4月に新入女子学生歓迎会を行っていますが、年に1度ではなく、継続して実施して欲しいという学生の要望に応じて開催することになりました。この会は、女性セミナーのように何かを学んだり、物を作ったりするのではなく、各自がお昼休みに学生談話室にお弁当を持参し、食後に用意されたスイーツを楽しみながら、学年や学部を越えて交流の輪を広げることが目的です。今回は、「プライダル」について皆さんで話し合いました。これは、

来春シャレオで行われる「プライダル」イベントに協力するため、「駅地下プロジェクトチーム」の高石教授、池坊准教授、中村（格芳）准教授が、中心になって女子学生から斬新なアイデアを出してもらうという企画でした。女子学生の皆さんからは、プライダルショーの動画やプライダル関係の雑誌を見ながら、素晴らしいアイデアをたくさん出してくださいました。次回もまた別のテーマでこの交流会を開催しますので、女子学生の皆さんの参加を期待しています。

フレッシユな思考が未来を拓く

研究室紹介

自然の恵みとその持続を探究する環境科学

工学部 食農バイオ・リサイクル学科 教授 竹野 健次



近年提唱された国連による持続可能な開発のための教育や世界遺産の保護、国際条約である地球温暖化対策や生物多様性など、地球環境問題は人類の健全な生存において益々重要な課題になっています。国内においても、科学的基盤を強化すると同時に地域における人と自然の関係の見直しと再構築を目指し、政策に結び付ける動きも見られます。

こうした中、工学部の竹野研究室は地域の環境資源に着目し、日本三大酒蔵と言われる西条の醸造用地下水の秘密とその水源保護、水生植物による水質浄化能力の解明と水環境の保全など、水を中心とした地域の環境資源の保護と、生活や食文化に活かす方法を探っています。水生生物の飼育水槽や清酒酵母が培養されている研究室で、環境科学の世界に触れてみてはいかがでしょうか。



研究室ベランダに設置されている水生植物による水質浄化実験

短期大学部

就職支援授業

毎年、入学当初から就職支援授業として前期は「クルマの整備業」、後期は「就職講座」を実施しています。

1年生の2月から就職試験が始まるため、入学してから10ヶ月で受験先を決めないといけません。そのためには多様な企業内容・働き方を理解する必要があります。

企業の採用担当者から「学生と社会人との違い」、「どんな学生が欲しいか等」また、卒業生から「今の会社に入社した理由」、「仕事をして良かったこと、つらかったこと」

などについて話をさせていただきました。

また、「実車による説明会」では、企業から乗用車を展示し、「お客様対応及び点検デモンストレーション」や「デザインの詳細」について学習をしました。

参加した学生からは、夏休みから始まる「個別企業研究」に向けて、とても参考になったと好評でした。



卒業生で(株)アンフィニ広島に勤務する上武志さんによる点検デモ

クルマの整備業 (前期)

企業名	講義内容
(株) アンフィニ広島	卒業までに身に付けて欲しいこと
三菱ふそうトラック・バス (株)	大型車の整備の仕事について
(株) スズキ自販広島	乗用車の整備の仕事について
西尾レントオール (株)	建設機械の整備の仕事について
(株) 広島マツダ他	「マツダ春のセミナー」
広島トヨベツト (株)	乗用車の整備の仕事について

水無月祭

6月3日、校友会主催の水無月祭(ソフトボール大会)と学生生活指導委員会主催の学生交流会を開催しました。

大会は学生4チームに専攻科・教員の1チームの計5チームで1試合5回までのトーナメント形式で行いました。地元球団の活躍の影響からか、学生はこの大会にとっても興味を持っていたようです。今日初めてソフトボールする学生から甲子園出場経験者まで、それぞれが全力でプレーしていました。合計5試合を消化し、天候にも恵まれスポーツで汗を流すことで学年を超えた交流ができ、笑顔や声援の絶えない楽しい大会となりました。大会終了後はバーベキューを楽しみました。教員と専攻科の学生が主体となって準備と給仕を行い、後輩たちに体力をつけてもらおうという配慮がうかがえました。激しい運動の後でお腹をすかせた学生たちは、美味しそうにたくさん食べていました。中には自分たちで釣ってきた魚を焼いて食べようとする人もいました。水無月祭や交流会を通じて教員と学生、双方のコミュニケーションを充実させることができた楽しい1日でした。



青空の下で行われたソフトボール大会

本短大の教育に海外からも関心

PICK UP!

中国・重慶市の訪問団が短大に来学

6月30日、広島県地域政策局国際課を通じて重慶市教科文国際交流中心訪問団3名と県の関係者2名が本学を訪問されました。訪問団の目的は自動車整備や介護の分野で重慶市の大学生を広島教育機関へ留学生として派遣して、将来的には日本の企業への就職につなげていきたいとのことです。そのほか、増加している中国国内の自動車に対する整備技術者の育成も念頭にあるようです。

知名宏短期大学部長と楠木良治入試委員長が対応し、本学の教育体制、留学生の動向、全学生の就職状況などを説明しました。謝総裁や魏理事からは本学の教育やカリキュラムの内容、学費、本学入学に必要な資格など細かい質問が出されこの分野に対する関心の高さが窺えました。

今後、さらに情報交換を行い、具体的に連携の可能性を検討して行くことになります。



訪問団に本短大の教育を説明する短期大学部長

体育祭

総合学科 3年 松野 花奈 (海田中学校出身)

私の高校生活最後の体育祭は、クラス旗を完成させるところからスタートしました。今年は検定があり、時間がとても少なかったのですが、クラスの人たちの協力で間に合わせることができました。完成した旗を見た人たちが「かっていい」「すごい」と言ってくれて、頑張ってたかったと思いました。

そして本番。最初の行進では、胸を張って歩くことができました。賞を取ること



クラス対抗リレー

ことはできませんでしたが、一番列が揃っていてよかったです。その後昼までテントで応援をしました。3年生男子の棒上旗奪いはとても迫力があって見ているだけでも楽しく、1年生女子のチアダンスも男子の集団行動も動きが揃っていて、きれいでかってよかったです。リレーの予選では、女子も男子も一生懸命走っていてかってよかったです。男子は決勝に残ることができました。2年生のフォークダンスはみんな笑顔で楽しそうだったので、私も踊りたくなりました。

昼からは盆踊りがありました。自分で着付けが速くできるようになり、嬉しかったです。いろいろな浴衣があり、みんなが楽しそうでとても華やかでした。また、長縄跳びにも出ました。「もっと飛ぶことができたな」と少し悔いがありました。そしてクラス対抗リレーの決勝が始まりました。クラスみんなが総立ちで隣のクラスも巻き込み、選手の名前を叫んで全力で応援するのがとても楽しかったです。そのおかげもあって男子のリレーは、優勝することができました。クラスのテントに帰ってきたリレーメンバーの顔は、とても清々しくかってよかったです。昨年、悔しい思いをして来年こそは一位を取ると言っていたので、有言実行で優勝できて本当に良かったです。

赤組も男子リレーも優勝でき、高校生活最後の体育祭はとても心に残るものになりました。また、クラスの団結力も高まりすごくよかったです。

集団合宿

普通科 1年 地造 美由 (府中中学校出身)



カッター研修

私が集団合宿で感じたことは、三つあります。

一つ目は、時間を守ることの大切さです。最初は、10分前行動が身についておらず、集合時間に遅れてしまうことがありました。しかし、先生の話の聞いたり、みんなの様子を見ているうちに早く行動しなくてはという気持ちに変わり、10分前行動ができるようになりました。私は、朝も学校に来るのが遅いので、もっと早く登校できるように行動しようと思いました。早く行動をすると、焦ることもなく、忘れ物もなくなるので、これからは気を付けようと思います。

二つ目は、切り替えをすることです。楽しむときは楽しむ、静かにするときには静かにするという切り替えをきちんとすると、物事がスムーズに進むことがわかりました。そうすれば、先生も生徒も嫌な思いをすることもありません。最初は、切り替えができない人もいて、そのせいでどうして私が怒られなければいけないのだろうと思いました。しかし、一人で行動しているのではなく、集団で行動をしているので、一人の責任は全体の責任ということを学びました。また、最初に思っていた気持ちから変わることがたくさんあったのでとても良い経験になりました。

三つ目は、協力することの大切さです。二日目に行ったカッター研修では、初めて一人でオールを持って漕ぎました。中学生の時にもカッター研修をしたのですが、その時にはオールを二人で持ったので、少しでも気持ちが楽でした。でも、今回は一人だったのでオールがとても重く感じ、すごく辛かったです。でも、みんなも一緒に頑張っていると思い、最後まで頑張ることができました。

この合宿で学んだことは、たくさんありました。参加する前から楽しみにしていた合宿でしたが、勉強になることばかりでした。できないと思っていたことでも、やる気を出せばできるということを実感しました。これからは、この経験を活かして勉強や部活を頑張り、有意義な高校生活を送りたいと思います。

第 29 回定期演奏会を終えて

6 月 18 日に本校吹奏楽部の第 29 回定期演奏会が開催されました。

第 1 部はクラシックで、難曲『ルイ・ブルジョワの讃歌による変奏曲』にチャレンジし、今年のコンクール自由曲のプロコフィエフ作曲「バレエ音楽『ロメオとジュリエット』」をドラマティックに演奏しました。第 2 部では、「ダンス・ムーヴメント!!」と題して、ミュージカルからディスコ音楽までバラエティに富んだステージを披露しました。中でも『Dancin' 会津磐梯山』では、本校のダンス同好会がすばらしいパフォーマンスで魅せ、拍手喝采を浴びました。また、『コーラスライン・メドレー』では国際名物タップダンスを踊りました。今回は新しい試みでプロジェクション・マッピングに挑戦し、好評でした。



プロジェクション・マッピングを駆使した演奏

この演奏会を開催するにあたり、多くの方々から多大なるご支援をいただきました。この場を借りて感謝したいと思います。

THE 国際学院 EXCHANGE

●アメリカからニコラス君がやってきました

7 月 18 ~ 20 日、アメリカ・オハイオ州から Nicolas DeSonia 君 (18 歳) が本校に来ました。日本に興味津々のニコラス君は S 2-2 クラスに入り、3 日間という短い期間でしたが、クラスマッチに参加して皆と汗を流し、終業式にも出席するなどクラスに溶け込んでいました。



ニコラス君

●タイ・台湾からの留学生

2 学期から本校に 2 名の留学生をお迎えしています! みなさん、よろしくお願ひします。

ツッシュアンさん
(台湾・台北出身)

「日本の文化を学んで世界中に友達を作りたいです。好きな科目は生物学、将来は、翻訳家になりたいです。」



ミンクさん

(タイ王国・チョンブリ出身)

「新しい友達をたくさん作って、日本の文化を勉強したいです。将来は、通訳と起業家になりたいです。」



●ホストファミリー募集!!

10 月 24 ~ 26 日、フランス・パリの 16 区にある中高一貫学校 (私立) の Institut de la Tour から高校生が 14 名、本校を訪問します。2 泊 3 日のホームステイを希望しておりますので、ホストファミリーを募集します。なお、今回来る生徒たちは、英語はもちろん、日本語も現地の学校で第 3 言語として学習しています。

期間: 2017 年 10 月 24 日 (火)
~ 10 月 26 日 (木)

※ 24 日夕方、一緒に下校し、26 日朝、一緒に登校したらお別れです。

募集人数: 男子 6 家庭、女子 8 家庭

ミュージカルを通じ、源内の生き様に触れる —芸術鑑賞会—



ミュージカル「げんない」

普通科 2 年 生徒会長 末永 智士 (幟町中学校出身)

私は今回の芸術鑑賞ミュージカル「げんない」を通じて心に残ったことが三つあります。

一つ目は、舞台装置の壮大さです。場面毎にあっという間に装置が入れ替わっていくのですが、その迫りに圧倒されてしまいました。

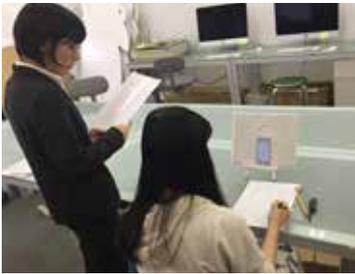
二つ目は観客を惹きつける表現力です。単なる御芝居にはない、歌や踊りによって場面の雰囲気や登場人物の心情を効果的に表現しており、気が付くと舞台上に夢中になっていました。

そして三つ目は平賀源内の生き様です。なかなか周りに受け入れられなくても、どんなに困難があっても夢をあきらめない、常に未来を見据えて走り続ける姿に感銘を受けました。

私たち生徒が普段あまり見ることのないミュージカルだったので、新鮮な気持ちで楽しむことができました。ですが、ただ鑑賞しただけで終わらせてしまっただけでは意味がありません。源内の生き様のように私たちも「未来を変える。」という強い意志を持って何事にも取り組んでいこうと思います。

見やすくわかりやすいピクトグラムを追求

井堰 絵里佳（大学院工学研究科 材料工学専攻 博士課程2年 美鈴が丘高校出身）



(a) 実験の様子



(b) 名古屋大学での発表

井堰絵里佳さんは本大学の情報デザイン学科を卒業し、社会人を経て本学大学院修士を修了、現在大学院博士2年生です。後輩には優しい先輩であり、研究には厳しく、大変真面目に取り組んでいます。日本デザイン学会、日本図学会、日本展示学会において口頭発表を行ない、2017年6月1日には日本図学会において査読付研究論文、「ピクトグラムの「図の細かさ、精細さ」における「視認性」と「理解度」-ピクトグラムを使用した博物館のスマートフォン用解説支援 Web サイトの研究-」が大変高い評価で採択されました。さらに新たなテーマで研究を進め実験 (a) を繰り返しながら、6月18日には名古屋大学で開催された日本展示学会において「参加型連携ミュージアム支援システムにおけるピクトグラム制作の調査」というテーマで口頭発表を行ないました (b)。今後、デザインしたピクトグラムの有効性を実証するために、共同研究者と共に、国立科学博物館、北九州市立自然史・歴史博物館、広島県立美術館等で実験を実施する予定です。

また、社会的活動にも積極的に参加しています。8月2日には、海田町の公民館ひまわりプラザで小学生を対象としたワークショップに参加して講師を務めました (c)。さらに8月10



(c) 海田町のワークショップ

日本学で開催された「夏休みキミの自由研究応援します」では、メイン講師として小学生に Mac PC を使用した授業を行い好評でした。

将来は博士号を取得し、研究者として研究を進めることを希望しています。

イラストを描くだけでは終わらない

松本 佳奈（大学院工学研究科 生産創成工学専攻 修士2年 広陵高校出身）



ワークショップの様子

大学院工学研究科生産創成工学専攻2年の松本佳奈さんは本学部生の頃から地域イベントなどの様々なポスターやチラシに使用するイラストを描いてきました。近年では、「おんなのこのめいさくえほんベストセレクション80」（西東社）の挿絵や「採点者に好印象を与える 高校入試 小論文・作文のオキテ55」（KADOKAWA）の表紙と挿絵、「スキマに3分5教科シャッフルまめおぼえ」（KADOKAWA）の漫画、「ミラクルハッピー ヒミツの心理テストMAX」（西東社）の挿絵など有名な出版社の仕事数を多く手掛けています。

大学院では、イラストを描くだけではなく絵を描く技術や知識をどのように社会で活用していくかを研究しています。松本さんがつくったキャラクターをベースに参加者が絵を描き、アニメーションの仕組みを体験することができるワークショップ「パッチワークアニメーション」をいろいろなところで行っています。また観客の手ぶり身振りに反応して、キャラクターがアニメーションで大学情報を話してくれるデジタルサイネージ「デジコ」を開発しています。すでに試作段階はオープンキャンパスや外部イベントに使用しており、お客さんは興味深そうに「デジコ」が話す大学案内に耳を傾けていました。

本来、イラストレーターなど制作を中心に行っている人は、描く技術のみを研究にすることが多いのです。しかし松本さんはそれに留まることなく、さらにその技術の活用方法を研究しています。今後、これらの研究がイラスト分野の領域を越えて、新しい価値を作り出し



ワークショップ作品

ていければと思います。

小型スターリングエンジン用加熱器の製作に用いる無電解ニッケルメッキ技術に関する研究

劉 華鋼 (大学院工学研究科 材料工学専攻 博士課程3年 中国・四川省出身)

スターリングエンジン加熱器の性能はエンジンの性能に大きな影響を及ぼしているため、加熱器の設計と製作は重要な技術の1つとなっています。通常、加熱器のヒータ管は溶接、銀ロウやニッケルロウなどにより管板に接合していますが、銀ロウは耐熱温度が比較的低温、ニッケルロウは強還元性の水素ガス雰囲気中もしくは真空雰囲気中で行う必要があるため、高コストが問題となります。また、SUS材が溶接で接合するときに粒界腐食の問題もあります。これらの問題を解決するための新しい接合法として、耐食性及び耐久性に優れ、高温強度が高いニッケルメッキ皮膜に着目し、無電解ニッケルメッキによるヒータ管接合技術を1つの研究課題としています。この研究課題では、まず、無電解ニッケル皮膜の物性を調べ、加熱器接合の適応性を検討しました。次に、メッキ皮膜の密着強度や、接合部のせん断強度などの評価試験を行いながら、メッキ工程の最適化を行いました。図1に示す接合部メッキ皮膜の顕微鏡写真でヒータ管と管板が密着していることを確認できます。図2は無電解メッキによる加熱器の試作品です。次の段階では製作した加熱器を実際のスターリングエンジンに装着し、その密閉性、耐熱性、耐久性などの性能試験を行う予定です。



図1 加熱器接合部のNi皮膜

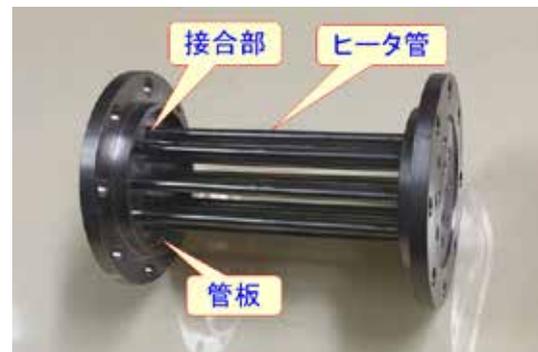


図2 試作した加熱器

留学生交流会

留学生会部長 李 強 (現代社会学科2年 中国・四川省出身)

広島国際学院大学留学生会とは、アジア各国から集まった留学生が、様々な活動や会合を通して、留学生と日本人学生、教職員および地域の人達との友好、留学生と日本人学生相互の連帯を強めて行くことを目的としたサークルです。

6月7日に学生支援課主催の留学生交流会は予定通り開催されました。本交流会は新入生たちの緊張感を解消しました。今年も多くの留学生、日本人学生、教職員が参加し、互いの国の文化を紹介し合いながら交流を深めました。



風船ゲームで盛り上がる留学生たち

今年の司会者は現代社会学科1年生ベトナム人の留学生で、グエン ティ フェン チャンさんです。みんな美味しい料理を巡って、特にベトナムの春巻きと手羽先の話をしました。当日の午前中に、ベトナム留学生10人ぐらいがベトナムの春巻きを作ってくれたのです。そして、留学生と日本人学生が8グループに分かれ、2名ずつ代表にして、合計16名の学生が風船ゲームに参加しました。上から3位までのグループにプレゼントを贈呈しました。負け組の人は罰ゲームなしで済みました。みんなの笑い声のなかに、今回の交流会が終わりました。

新入生たちは先輩からも温かい励ましの言葉を受け、それぞれのゲームに参加して、素晴らしい交流の場となりました。多くの励ましを受けた新入生にとって、この上ない喜びの一日でした。この喜びを皆様と一緒に分かち合いたいと思います。

高校新体育館の緞帳を出身学生がデザイン・プレゼンテーション



(a) 飯田英祐さんによるドリームキャッチャーをテーマにしたデザイン



(b) 佐々木輝さんによる桜モチーフのデザイン



(c) 佐々木輝さんによる未来をテーマにしたデザイン



(d) 緒方和伽さんによる四季を表現したデザイン



(e) 小川知佳さんによる成長をテーマにしたデザイン



理事長、校長など本学院教職員に緞帳デザインを説明する学生たち

広島国際学院高校出身学生4名が高校新体育館の緞帳をデザインし、8月2日にプレゼンテーションを行いました。何度も調査を重ね、鶴素直理事長、森崎恒夫校長、田中満彦副校長、岡田隆治教頭、長延公平主幹教諭にもお話を聞かせていただき、デザインとプレゼンテーションを積み上げました。

飯田英祐さん(大学院工学研究科 生産創成工学専攻 修士1年:総合学科出身)のデザインは、夢を掴むドリームキャッチャーをテーマとして、つながり、コミュニティ、川や橋等を表現しました(a)。

佐々木輝さん(大学院工学研究科 生産創成工学専攻 修士1年:総合学科出身)は2案デザインしました。1案目は桜をモチーフとして、四季折々の人々を見守る優しい桜、思い出、樹を見上げたアングルから未来への希望等を表現しました(b)。2案目は、鶴理事長の歴史を踏まえたお話を参考に、先生の温かさ、生徒の向上心、仲睦まじさ、生徒と高校の未来をテーマとし具現化しています(c)。

緒方和伽さん(情報デザイン学科4年:普通科出身)は広島国際学院生らしさを優しさ(春:桜)、活発(夏:ひまわり)、情熱(秋:紅葉)、厳しさ(冬:雪の結晶)で表現しています(d)。

小川知佳さん(情報デザイン学科4年:普通科出身)は、成長をテーマとして、生徒の魂や個性、先生や保護者の支えを中心の大樹で表し、明るい色調で表現しています(e)。

		9月	10月	11月	12月	1月
(赤字は公開行事です)	学院			1 創立記念日		
	大学	19 授業開始	14 第50回高城祭(~15)	1 大学創立50周年記念講演会	24 冬季休業(~1/8)	9 授業開始
		30 ミニオープンキャンパス 30 第47回球技大会	28 ミニオープンキャンパス	18 推薦入試	25 事前教育スクーリング	13 大学入試センター試験(~14)
	短大	11 授業開始	7 保護者懇談会	4 推薦入試	2 推薦入試	9 授業開始
		16 オープンキャンパス	21 オープンキャンパス	18 オープンキャンパス	2 オープンキャンパス 25 冬季休業(~1/8)	11 合同企業研究会(~12) 20 オープンキャンパス 23 後期末試験(~25)
	高校	17 オープンスクール(~18)	11 【2年】中間考査(~14) 17 【1・3年】中間考査(~20) 16 【2年】修学旅行(~20)	18 文化祭(~19) ※公開は19日のみ	6 期末考査(~12) 20 終業式	9 始業式 25 【3年】卒業試験(~31)

●この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

●高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせください。 TEL:082-820-2536

発行/学校法人 広島国際学院 法人本部
編集協力/学生広報スタッフ
住所: 〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目20-1 電話:(082)820-2345